虐めによる自殺衝動の考察と苦痛の解説と仮説

シー様（借りの返せない男）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
虐めによる自殺衝動の考察と苦痛の解説と仮説

【Ｎコード】
Ｎ２７１１Ｐ

【作者名】
シー様（借りの返せない男）

【あらすじ】
自殺衝動の考察と苦痛の解説

。

（前書き）

過去、虐めにより遺書をテレビ局に送りつけた後、自殺した少年が居ましたが、その少年についてスポットライトを当ててみます
　以下の虐めにより自殺する少年の心理描写は、恐らく自殺衝動に駆られた事のない人が考える描写である。

＜自殺者の目線＞
僕は、世界で一番不幸な人間なんだ。
だから僕は自殺する。
僕か、自殺する理由は、いじめである。
僕は、学校でいじめらている。
ひどい、とても、ひどい虐めである。

僕の給食のプリンを取られた。
僕の給食に嫌いなニンジンを入れられた。
朝、学校に着くと、椅子と机が外に出ていた。
帰る時は、靴が隠されていた。
雨の日は傘の持つところで、股間をつつかれた。
悪口を言われた。
皆に無視をされた。
ケンカしても勝てなかった。

でも、僕は、先生にも親にも相談しない。
僕は強いから、そんなことしない。

でも僕は、世界で一番不幸だから、存在価値が無い。
生きている理由は無い。
だから死ぬ。

どうせ死ぬなら、世界で一番不幸であることを皆に認識させたい。
僕は、遺書を書いて、テレビ局に送った。
けれど、放送されなかった。

どうして？世界で一番不幸な人が、ここに居るんだよ。
どうして僕を認めてくれないの？

「ねえ、お母さん、僕、いじめられたよ。世界で一番不幸な人だよ。
「ねえ、お父さん、僕、いじめられたよ。世界で一番不幸な人だよ。

僕は、お父さんと、お母さんに「先生に相談しましょう」と、言われた。
相談って何？それどういう意味なの？わからない。
ねえ、聞いて、僕は、世界で一番不幸な人なんだよ。

そうか！！僕は、まだ、生きている。生きていたら、不幸とは呼べないんだ。
自殺してこそ可哀想な人である、
死んで初めて、僕は、世界で一番不幸な人になるんだ。

よし、自殺してみよう。
自殺は、簡単だ。
テレビでやっていた、真似をすればいいのだ。
ロープを高いところに、くくってヨイショ。。。、台に乗ってジャンプ！！！

僕は、首を今つった。これで死ねる・・・

くく、、、くるいし。。。。
死ぬの。。くるし。。

こんなに苦しいなんて。。。。
知らなかった・・・
もう駄目。。
だれか、、助けて。。。
だれ。。。か・・

～心理考察～

いじめた奴らに復讐。
虐めが良くないということを世間にアピール。
この２つの可能性もありましたが、
この２つを考えられるほどの、行動力があったなら。
いじめから、逃げるという選択肢も考えられるはずな訳で。。。

最近、テレビで、残酷描写を避ける為に、自殺で苦しむ顔のシーンをカットする傾向があります。
それが、余計に死に対して無頓着になっているのではなかろうか。

かといって残酷表現もいけない場合も、あるわけで、警察の犯罪データベースに内には，
３歳児がホラー映画の首を絞めるシーンの真似をして、兄弟の１歳児を殺害したという事件もありますから、放送する側は、ケースに応じて、とことん分析しなきゃいけませんね。

と、いいつつも、仮に、首を吊って自殺するシーンで、苦しむ顔を放送していたら、
快楽的な凶悪少年が、真似をする可能性もあるんで、前言は撤回させてもらいます。
放送者は、私が考える以上に、とことん分析しているみたいです・・・馬鹿にしてゴメンナサイ。

また、完璧すぎる親。いわば、感情的な自分を出さない親も、ひとつの原因なっているのではなかろうか。
もし、親が「男ならやり返せ」と、いう言葉があったなら、主人公は自分が世界で一番不幸であるかどうかを考えるキッカケになったかもしれない。

と、いいつつも、これも前言撤回ですね。
やり返して頑張った少年に「男ならやり返せ」とプレッシャーを与えたら、
親に認められないことに絶望して、結果的に「自分が世界で一番不幸な人」と考えて自殺するかもしれません。

僕自身、子供の頃、嫌なことがあると、自分は「世界で一番不幸な少年」だ！

と、思っていた時期があります。
皆さんは、子供の頃、どうでしたか。
その時期に、運悪く、主人公のような影響を受けていたら、自殺したのは自分かもしれないです。

　と、上記の様に思っていましたが、自分の自殺衝動に駆らた経験を元にしたら、別の視点でこの少年は死んだ可能性があります。それが以下となる

＜自殺者の目線　続き＞
「ねえ、お母さん、僕、いじめられたよ。世界で一番不幸な人だよ。
「ねえ、お父さん、僕、いじめられたよ。世界で一番不幸な人だよ。

僕は、お父さんと、お母さんに「先生に相談しましょう」と、言われた。
相談って何？それどういう意味なの？わからない。
ねえ、聞いて、僕は、世界で一番不幸な人なんだよ。

なんで・・・なんで僕の事を誰も理解してくれないのかな。
あれ？　僕ってなんでこんなに被害者ぶっているいるんだろうか。
情けないな・・・、僕は、こんなに弱い人間じゃない。
誰かに頼ってすがる様な弱い人間なんかじゃない。
我慢できる。今までだって、虐めに耐えてきた。
だから我慢、我慢するんだ！

苦しいよ。寂しいよ。
やっぱり我慢するのは辛いよ。
誰かお願い、僕をここから救い出して・・・

い、言えない。言いたくない！
こんな弱い僕を僕は絶対認めたくない。
でも駄目、このままだと僕、自殺したくなる。

よし、決めた。遺書を書いてテレビ局に送ろう。
実際死ぬわけじゃない。ただ、虐めが良くないと世間にアピールして貰えれば、誰かの虐めが無くなるかもしれない。上手く行けば僕の虐めも終わるかもしれない。
それに僕が虐めに耐えてきた意味があるというものだ。

なぜ、どうして、僕の事が話題に成らないの？
そうか、実際に人が死なないとメディアはネタにできないんだな。

じゃあ、僕はこれから、どうしたらいいんだ？
今まで通りに虐めに耐えなければいけないのか？

嫌だ。
怖い
学校なんて行きたくない。

でも、行かなくちゃパパとママを不幸にする。
でも嫌なんだ。

消えたい。
でも、死んだら余計にパパとママを不幸にする

どうしたらいい？

ねえ、どうしたらいいの僕？

判らない。
時間がない。
明日が来る。
怖い。
どうしたらいい？
判らない。
時間がない。
後１０時間しかない。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
後１時間しかない。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。

怖い。

どうしたらいい？

判らない。

時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。

時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。

後３０分しかない。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。

怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。

どうしたらいい？

どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうしたらいい？どうした

らいい？どうしたらいい？ど

判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。

判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。判らない。
判らない。判らない。判らない。判らない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。
時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。
時間がない。

時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。
時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。
時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。
時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。
時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。
時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。　時間がない。
時間がない。　時間がない。

あと１５分しかない。。

怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。
怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。

い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖
い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。

怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。

怖い。

怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。　怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・

怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。

怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。
怖い。

怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。怖い。
怖い。

＜仮説＞

彼は上記の様に学校へ行く時間が迫り来る恐怖を受け入れ戦い、葛藤し、打開策を必死で模索する無限ループの中にた。

時間が迫れば迫るほど、より恐怖は大きくなり、その恐怖を打開するべく、どうしたらいいか考える事で更に頑張る。頑張ってる間に時間が迫ってる事に気づく。気づいた時には、頑張った努力の甲斐も無く打開策が見つからない現実を自覚。

その現実は恐怖であり、その恐怖は打開策を見つける為に頑張ったからこそ、受け入れたく無い。受け入れたくないからこそ、更に

打開策を見つけようと頑張る。
　それでも打開策を見つからないと、また、頑張る。というループになるのだが

ここまでは恐怖心が加速的に増えていく理屈は無い。
学校へ行く事に対して死ぬよりの恐怖心を抱かなければ自殺は成立しない。

そのメカニズムを解明する為の第一段階として以下の例を挙げる
＜物理的に恐怖を与える為に高いビルの上に人が立ちビルの下を見下ろす恐怖、高所恐怖を与えても。時間と共に慣れる性質がある＞
　人は目に見える恐怖を直視できるかこそ、人間の体は免疫を持とうとする。
　しかし、心理的による恐怖に関しては、常に恐怖の情報を脳が認識している訳ではなく、「頑張って打開策を見つける」という思考へ至っている瞬間、無防備な隙が生じる。
　その隙に脳は恐怖を感じるという感覚から開放され、恐怖心への電気刺激的アクセスをしなくなる。
　それは即ち、恐怖を感じる電気刺激野への信号が突然断ち切れてしまい、刺激を受けていたシナプス細胞が死ぬ宿命ある事を意味する。
　そしてシナプスも死ぬ事を恐怖し周囲のニューロンと強く結びつきあってしまう。それにより再度、恐怖心を感じたとき、それは先ほどまでと比べて相対的に大きな恐怖心と成る。相対的に強い恐怖という事は前と比べても受け入れがたい恐怖だからこそ「頑張って打開策を見つける」をしてしまい隙を生しさせ、ループする。
　そうやって相対的に永遠と恐怖心が増え続けていく。

ビルの上に立つときはただ、恐怖を受け入れる立場でしかないから、

脳内に無防備な隙は生じなく、だからこそ免疫が付く。
しかし、隙が生じる心理的恐怖は、恐怖の絶対的な量が定義されていなく、、あくまで脳で認知する。脳で感覚を認知する以上、相対的認知であり、だからこそ、極端な思考を発生させてしてしまうのである。

人は恐怖というイメージに対して恐怖心を抱き、また、その抱いた恐怖に対しても恐怖心が抱ける動物であるという事

彼は無限に続く絶望という名の苦痛に発狂し、自我を壊し、我を失った。
とめどなく溢れる苦痛は、発散されるべきところもないし、あったとしても奇声だけが誰もいない室内を木霊する。彼は今、正に、この世の最も苦しい苦痛、無限ループ地獄を体験しているのである。
そして昔、自殺するべく用意してたロープに、突発的に飛び込み、苦痛から開放された。
更に大きな痛みを伴いながら・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2711p/

虐めによる自殺衝動の考察と苦痛の解説と仮説

2010年12月10日14時19分発行